

# みんなが育つ みんなで育つ 保育の創造

～一人一人を支える支援を 小学校生活につなげるために～

幼稚園における  
P B S の実践です。



## それぞれの担任の就学に向けての願い

小学校生活に期待をもち、就学するために、幼稚園で自信をもって園生活を送ることができるようになってほしい。



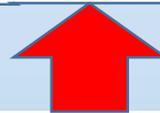
通常の学級 担任

小学校生活を安心して送ることができるよう、個々の課題に向けて取り組む中で学級の友達との関わりを楽しむようになってほしい。



特別支援学級 担任

通常の学級に在籍している幼児と特別支援学級に在籍している幼児全員が同じ目標をもち、取り組む事で個々の意識の向上だけでなく、全員が一致団結して活動し、小学校入学が**楽しみ**になるような取組をしたい！



通常の学級 担任



特別支援学級 担任



# 目的を設定するきっかけについて

「みんな本当に手際よく椅子を並べることができるようになってきたね」



「だって何でもできるかっこいい1年生になりたいもん」



「かっこいい1年生になる」ということを目的に、みんなが取り組める共通の目標を設定しよう！

# かっこいい1年生になるために

## (1) アンケート作成

かっこいい1年生になるために!

☆こんにちは。○○ようちえんの△△ぐみです。

□□しょうがっこうの1年生のおにいさんとおねえさんみたいなかっこいい1年生になるためには、どんなことをがんばったらいいのかわかるかな。

3つえらんでおしえてください!

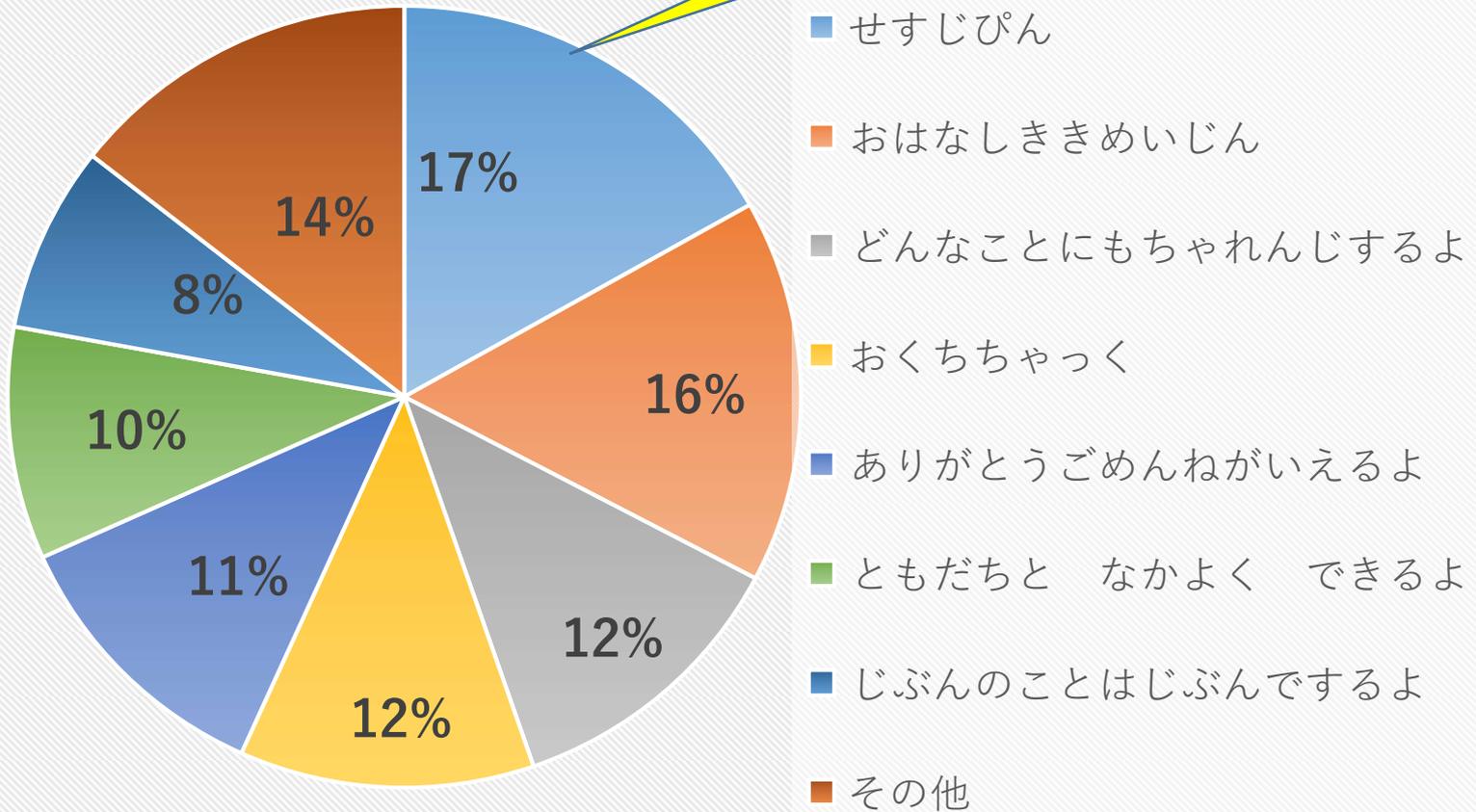
おはなし きき めいじん (おはなしをきくのがじょうずだよ)
せすじ びん (かっことよくすわることができるよ)
おくち ちゃっく (しずかにできるよ)
あいさつ じょうず (「おはようございます」などきもちのいいあいさつができるよ)
「ありがとう」「ごめんね」が いえるよ
じぶんの きもちが せんせいや ともだちに いえるよ
きゅうしよく だいすき (のこさずきれいにたべるよ)
じぶんのことは じぶんで するよ
どんなことにも ちゃれんじ するよ (やったことない ことでも まずは ちょうせん! やってみるよ)
ともだちと なかよく できるよ (いっしょにあそぶと たのしいね)

- ① 小学校1年担任に対する  
「小学校生活に必要な力や  
入学後大切にしていること」  
などの聞き取り
- ② 小学校1年児童に対する  
「大事だと思っていること、  
大切に思っていること」  
などの聞き取り
- ③ 小学校1年担任が実際に指導に  
使う言葉などを参考にし、  
アンケート用紙を作成

## (2) アンケート結果

「背すじピン」  
を取り組むことに！

カッコいい1ねんせいになるために！





### (3) ステージ表の作成

- 1つのステージを100ますに設定。
- ステージをクリアしていく毎に新しいステージをその上に付け、高さで目標達成を表現。
- 地下から水中、地上、空、宇宙へという各ステージ毎のイメージを設定し、次のステージを楽しみに出来るように工夫。

## (4) 取組について



小学校では  
教師「お話聞いて」  
児童「さあどうぞ」  
のやりとり後、教師が話を始めていた。

そこで、同じやりとりを取り入れ、  
児童が話を聞く姿勢が作れたことを確認してから、  
幼児が興味を持つ素話をする時間を取った。



特別支援学級の幼児には、幼児が通う療育  
機関とも話し合い、  
・一人一人に合わせた足型カードの作成  
・教師が隣りで感覚刺激を与える  
などの支援をすることで、同じ目標に向かっ  
て取り組むことができるようにした。

# 小学校1年生見学

みんなが先生の方を見て、  
きれいに座っている！



かっこいい  
1年生だね



「かっこいい1年生に  
なりたい！」  
実際の見学で  
ますますやる気UP！！

背すじピン  
がんばろう！



# 実践事例 1 「僕も貼れた！ ～特別支援学級D児」

1 担任から、ステージ表の紹介



2 できるかどうか不安そうなD児



3 全員で挑戦！全員クリア！



4 笑顔でシールを貼るD児



## (考察)

- 幼児がわくわくした気持ちで取り組むきっかけとなればと、本園の教諭に幼児の好きなキャラクターを使ったステージ表の作成を依頼したことで、幼児は自分から進んで頑張ろうとする姿が見られた。  
また「毎回シールをゲットする」ことが次第に幼児の目標になっていき、「かっこいい1年生になるために」の時間を楽しみにするようになった。
- 特別支援学級の幼児には個々に合った取組方法を担任が工夫したことで無理なく取り組むことができた。  
初めはできないと言っていたD児も友達と一緒にシールを貼れたことが自信につながり、その時間を心待ちにするようになった。
- シールを貼れたことを3人の担任で認めながら更に意欲的に取り組むことができる内容や教材の工夫などが必要だと思った。

## 実践事例 2 「ここに貼るんよ」

「みんな上手に背すじピンが  
できました」  
と、一人一人にシールを手渡した。

特別支援学級のA児にシールを手  
渡すと、少しきょとんとしている。

特別支援学級の担任が手伝おうと  
すると、

I児が「Aちゃん、こっちだよ」  
と手をつなぎ、ステージ表へ一緒  
に向かい、シールを貼った。



## (考察)

- シールを貼ることに慣れてきたことで、幼児一人一人が心にゆとりをもって取り組む姿や幼児同士でシールを貼る場所をさりげなく教え合う姿も見られるようになった。

学級全員で取り組んでいるからこそ、自然とそのような姿も見られるようになったのだと感じた。

それぞれの幼児の姿を担当同士が共通理解しながら、丁寧に見取っていき、一層意欲的に取り組むことができるようにしたいと思った。

## 実践事例 3 「ステージ 2 へ」

「背すじピン始まるよ」と担任が言うと「ちょっと待って」と F 児と G 児は走ってステージ 1 の表の前行き、何やら数えている。

「何を数えているの？」と担任が言うと、二人は顔を見合わせて微笑み「今日でクリアするはず」と F 児。

「背すじピン」の時間が終わり、F 児と G 児の予想通り、ステージ 1 はクリアした。そこで担任が「次はステージ 2 に移ります」と言うと、幼児は「うわっ」と目を丸くしている。

ステージ 2 をステージ 1 の上につなげて貼ると「おおっ」と幼児。

「このステージ 2 もみんなでクリアするぞ」と特別支援学級の D 児が言った。



## (考察)

- ステージ1のゴールが近づくたびに、ゴールまで何個貼ればいいのかと数える子どもが増えてきた。幼児にはあえて、ステージ1が終わるとステージ2があることを話さず、ゴールを楽しみにできるように関わった。ステージ2を見せると、ステージ1と2のイメージを変えて作成したこともゴールする楽しみにつながったようだ。
- ステージ2は素話の時間を1分半から2分くらいにするようにした。また足形カードを使っていた特別支援学級の幼児に対しても、姿勢が維持できるようになったので、そばで見守る支援に変えることにした。個々や集団の実状に合わせて変化させていくことも必要だと思った。

## 実践事例 4 「小学校 給食体験」

小学校での給食体験を幼児はとても楽しみにしていた。  
担任が「幼稚園の椅子よりも幅も広いし、大きいね」と言うと、頷く幼児。  
教卓に担任が立つと、背すじをピンと伸ばす幼児。  
「すごい。背すじピンだね。まるで小学1年生のお兄さんお姉さんに見えるよ」と担任が言うと、笑顔になる幼児。  
足元はしっかりピタッと床にくっつけている。

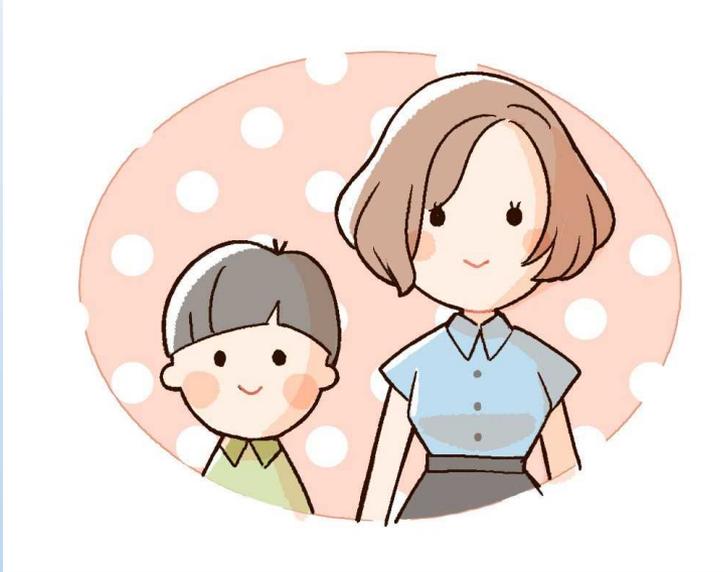
給食を食べる時も、  
しっかりと背すじを伸ばし、座っている幼児。  
給食が終わり、片付けの後、園に戻りながら、  
「小学校の椅子に座れたよ」  
「校長先生から上手に座っているねって  
ほめられたよ」と  
口々に笑顔で話す幼児の姿が見られた。



## (考察)

- 日々の取組の中で行ってきた「背すじピン」。給食体験でも全員が自分なりに意識をもって取り組もうとしている姿にとっても驚いた。給食体験は「もうすぐ小学生になるんだ」という幼児の気持ちを高め、期待につながった経験になったようである。
- 幼稚園の先生だけでなく、小学6年生や校長先生からも褒められたことが、より一層、幼児の自信につながったようだ。いろいろな立場の方から認められることは幼児の自信を高め、更なる取組への意欲につながるということを改めて感じた。
- 様々な機会を捉え、小学校と交流をすることは幼児にとって、小学校入学への不安感が、期待感につながっていくということを意識的しながら小学校の先生と連携をとるようにしていかなければならないと思った。

## 実践事例5 「H児の母より」



降園時、

「最近『背すじピン』っていうのをしてるんですよ。家でもステージが上がったとか、今日はあと何個でクリアなんだって話してくれます。かっこいい1年生になるんだよって。」

とH児の母は話をしてくれた。

## (考察)

- 幼稚園での取組を家でも話してくれていたことをとても嬉しく感じた。そして温かく応援しようとしてくれる保護者に対してもありがたいと思った。

園でこんな取組をしているということを保護者に伝えているが、子ども自身から伝えてくれることは本当に嬉しく、幼児一人一人の成長も感じる事ができた。

今後は活動の目的や幼児の成長について、もっと丁寧に保護者に伝えていきたいと思った。

## 実践事例 6 「すごく高くなった」

ステージ3が終わり、ステージ4のステージ表を幼児と一緒に貼る。



「ステージ4は空なんだ。すごい。」と特別支援学級のB児。

「そうなんよ。空なんよ。」と特別支援学級の担任が答えた。

ステージ表をまじまじと見ていた特別支援学級のC児とE児。

C児が「うわー、すごく高くなった。」とステージ表を指さす。

E児が「あとステージいくつあるのかな」と担任に聞いてきた。

「多分ステージ4を入れて、最後がステージ5だから、あと2つかな。」と答えると、

E児は「すごいね。ステージもあと2つだね。」と笑顔で答えた。

## (考察)

- 迷路のように100シールを並べて貼っていくとクリアという方法と、そのステージを縦に積み重ねていき、自分たちの取組の成果を高さで表現したことは、幼児にとって視覚的に分かりやすかったようだ。特にステージ4になり、自分の身長ぐらいになると「うわー、すごく高くなった。」とステージが進んできたことを実感することにつながったのだと思う。
- 幼児の目標の達成をきちんと視覚的に分かる方法で伝えることが、幼児にとって、小さな積み重ねは目標に向かっていく確かな一歩だということが分かり、更にやる気を引き出すことにつながることに気付いた。このような幼児の姿やつぶやきを見逃さず、3人の担任で連携しながら関わっていきたいと思った。

## 実践事例 7 「ステージ4 が終わったよ」



「ステージ4 が終わったよ。」  
と、子ども同士ジャンプして  
ハイタッチをしている。  
「次はどんなになるのかな。」  
とJ児。

担任が  
「それでは次のステージを発表します。」  
と言うと、  
真剣に私の手元を見る幼児。  
「次はラストステージ。ラスボスの出現で  
す。」  
とラストステージを見せると、  
「キャー」「すごい」  
と口々に幼児は話し始める。

「みんなで頑張ったらすごいこと  
になった。」  
と特別支援学級のC児も大きな声で  
言った。

## (考察)

- 次がラストステージになり、幼児は更に目的がはっきりしたようだった。  
特別支援学級のE児もこれがシールで全部埋まったら1年生と  
いうことが分かり、笑顔で「あと少しよね。」と担任に話していた。
- ラストステージとなり、幼児はより一層張りきって話を聞くよう  
になった。  
「背すじピン」の時間だけでなく、その他の時間も姿勢に  
気を付けようとするようになったことは、小学校生活に期待をもち、  
自分なりに頑張ろうとしている幼児の心の表れだと感じた。

そのような幼児の姿に、小学校生活に期待をもつことができるような  
関わりを日々大切にしながら、一人一人が自信をもち、  
活動できるような保育内容を工夫していきたいと思った。

## 実践事例 8 「小学校見学」

小学校 1 年生の教室に入らせてもらった時、  
幼児はとても緊張したような表情で、真剣に担任が話をしている姿や  
児童の様子を見ている。

小学校の担任が「お話聞いて。」と言い、児童が「さあどうぞ。」と言った  
時、幼児は一斉にニヤニヤしながら私の顔を見た。さっきまでは一言も話そう  
としなかった幼児が、指で私にちょんちょんと合図して見せたり、背すじを  
いっぱい伸ばそうとしたりしている。

見学が終わり、幼稚園に帰る道。

「先生、僕たち、『お話聞いて』しよるよな。小学生と同じことをしよるよな。」と  
早速 H 児は私に言った。「同じこと、して  
たね。」と私が言うと「同じだった。私たち。同じだった。」と J 児。特別支援学級の  
D 児が「みんな背すじピンだった。」と  
言う。M 児は「僕、小学生になっても上手く座れそう。」と言った。「そうだね。みんな『お話聞いて』毎日してるもんね。」  
と私が言うと、全員が「うん」と大きく頷いた。



## (考察)

- 自分たちがしている取組と同じことを1年生の児童もしていることがとても嬉しかったようだ。頭では「小学1年生から教えてもらった。」ということが分かっているにもかかわらず、実際に小学生がしている姿を見て、驚いたのと同時に小学校入学への自信にもつながったようである。
- M児の母から、後日、「小学生と同じことを幼稚園でもしているからお勉強大丈夫って言っていました。」との話を聞いた。家庭でも伝えてくれているぐらい、加茂名小学校見学で見たことは幼児にとって大きく心に響いたようだ。このような体験を積み重ねていくことが、幼児にとって『小学校入学』というハードルを乗り越えていく力になるのだと実感した。

## 実践事例 9 「ステージを全クリした」



ステージ5は幼児とも相談し、床の上でも上手に座れることを目標にしながら取り組んでいた。

この日、K児が「今日はいよいよゴールできるはず。」と担任に言う。

「そうなんだ。楽しみだね。」と返すと、「あと13だから、絶対今日ゴールだよ。」とK児は笑顔で私に言った。

K児が周りの友達にも話してあったせいか「お話聞いて。」と担任が言うと、ニヤニヤしている幼児。更に背すじを伸ばす姿が見られる。

話が終わり、担任が一人一人にシールを渡していくとステージ表には人だかりができています。友達の貼る様子をじっくりと見ている幼児。最後のゴールのところにシールを貼ると「やったあ。」と周りの幼児。担任が「おめでとう。これで立派な1年生になれるよ。かっこいい1年生になれるよ。」と言うと、I児とJ児が「やった！」と手をつないでジャンプした。

## (考察)

- ステージ5までの全ステージをクリアすることが幼児だけでなく私たち担任3人を含めた全員の目標になっていた。その都度、幼児と話し合いながら難易度を変えたことが、クリアしていく毎に幼児の自信を高めることにつながったのではないかと思う。また個々の発達段階などに合わせて行ってきたことが、全員でクリアという意識につながったのだと思う。
- 初めは自分だけの取組だったが、長い時間をかけてじっくり取り組んできたことで、幼児同士で声を掛け合うなど、次第に学級全員での目標達成へと意識が変わっていった。そのような幼児の意識の変容や取り組む姿勢の成長に、教師の言葉掛けや、こんな子どもになってほしいという願いをもって教師同士が連携していくことの大切さを感じた。
- その後J児が「私だけのステージ表作ろうかな。」と提案したことがきっかけとなり、自分で目標を設定し、カレンダー形式のステージ表を作成した。長い時間をかけてきた取組を生かし、更に上をめざそうとする幼児の姿に嬉しく感じた。毎日1枚ずつ貼るシールが、幼稚園の修了に向けてのカウントダウンにもなり、幼児の表情が自信あふれる表情に変わっていったように思う。その後「自分のステージクリア式」も行い、実際のランドセルに教科書を入れて、背負ってみた。一人一人の自信あふれる表情をみて、取り組んでよかったと心から思った。

# 取組の成果と課題

かっこいい 1ねんせいになるために!

☆こんにちは。○○ようちえんの △△ぐみです。

□□しょうがっこうの 1ねんせいの おにいさんと おねえさん みたいな かっこいい 1ねんせいになるためには どんなことを がんばったら いいのか

3つ えらんで おしえてください!

おはなし きき めいじん (おはなしを きくのが じょうずだよ)
せすじ びん (かっこよく すわることができるよ)
おくち ちゃっく (しずかに できるよ)
あいさつ じょうず (「おはようございます」など きもちのいい あいさつが できるよ)
「ありがとう」「ごめんね」が いえるよ
じぶんの きもちが せんせいや ともだちに いえるよ
きゅうしょく だいすき (のこさず きれいに たべるよ)
じぶんのことは じぶんで するよ
どんなことにも ちゃれんじ するよ (やったことない ことでも まずは ちょうせん! やってみるよ)
ともだちと なかよく できるよ (いっしょに あそぶと たのしいね)

「背すじピン」だけでなく、1年生にとったアンケートの「おはなしききめいじん」や「おくちちゃっく」も次第にできるようになり、自信をもった幼児は「どんなことにもちゃれんじするよ」の項目や「ともだちとなかよくできるよ」という項目の姿も見られるようになった。一つの取組から様々な幼児の成長を促したことを実感し、教師が願いをもち、取り組むことの大切さを改めて感じた。

○教師の就学に向けての願いと幼児の「かっこいい1年生になりたい」という思いを実現するために、ポジティブ行動支援を取り入れ、アンケート結果に基づいて「かっこいい1年生になるため」の望ましい行動を考え、取り組むことにした。その中で通常の学級と特別支援学級の担任とが同じ方向性で、幼児に指導したり、個々に合わせた方法で同じ目標に向かって取り組むことができるよう工夫したりしたことで、幼児は楽しく、同じ目標に向かって無理なく取り組めた。そのことから、教師は幼児の発達段階を細かく見取っていきながら、個々に合わせた指導方法を工夫していくことが大切だと思った。



○幼児が自信をもって取り組んでいる姿に、家庭でも応援し、幼児のやる気を支えてくれた保護者の存在は大きく、保護者と幼稚園との連携の大切さを改めて実感した。



毎日、今日はどこまで貼れたよとか楽しみにしていたみたいです。小学校が楽しみになったとも言っています。

友達とみんなでしていることが嬉しいみたいでした。療育の先生とも連携をとり、進めてくださったことも、ありがたかったです。



○小学1年生の担任の先生と話し合いを重ね、実際の授業の様子を見学させていただいたことは、互いの指導内容や幼児児童の姿を共通理解することもでき、幼稚園から小学校への接続の連携を強めることができたと思う。令和5年5月には、修了した幼児の入学後の姿について話し合い、成長の姿についても知ることができ、連携の大切さを改めて感じた。

○今後も共通の目的に向かって全ての幼児がそれぞれの実態に合わせて取り組むことができ、小学校生活に向けて、期待をもつことができるような実践をしていきたい。

小学校との連携の流れ

令和4年	6月下旬	小学校への協力依頼
	6月下旬	アンケートの作成について小学校と協議
	7月上旬	小学校1年生にアンケート実施
	7月下旬	アンケート結果及び小学校との話し合い
	9月	小学校見学
	10月	「かっこいい1年生になるために」実践
令和5年	1月	小学校見学
	5月	小学校入学後の姿について小学校との協議